施工説明書

INAX

ろ過装置付気泡浴槽

マルチジェット

（機能部屋外設置型）

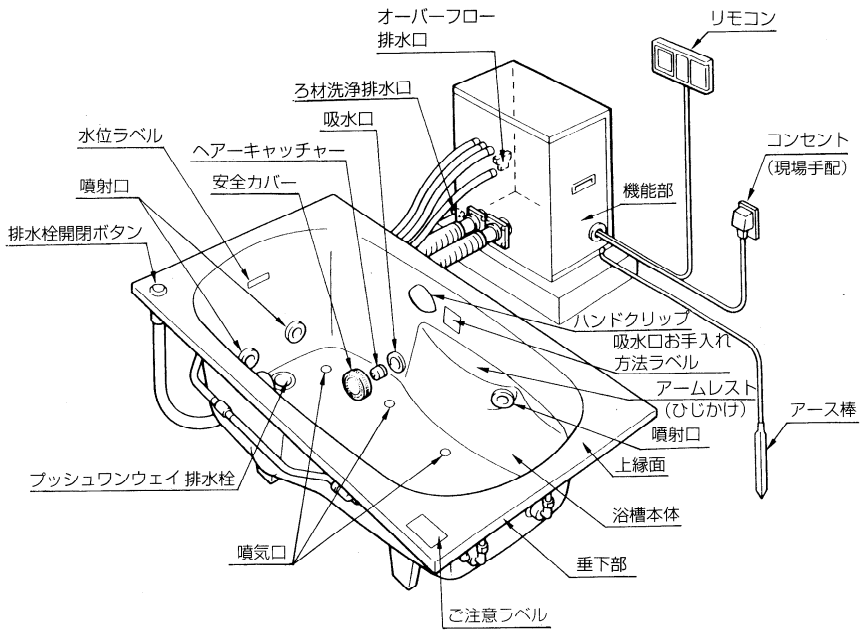
JBK-1400PL(R)
JBK-1400PL(R)A

施工前に必ずお読みください

- 施工に際しては必ずこの施工説明書に従い正しく施工してください。
  この施工説明書は浴槽部の施工から機能部の施工完了まで活用します。捨てずに次行程の施工業者の方に手渡してください。
  ※この施工説明書に記載されていない方法で施工され、それが原因で故障を生じた場合は、商品の保証を致しかねる場合がありますので、十分ご注意ください。
- 施工工事が全て完了した状態で巻末のチェックリストに従い、施工に欠陥がないよう必ず最終チェックを実施してください。
- 施工段階での欠陥工事は、施工店様に対して賠償責任が問われる場合がありますことを十分にご認識いただき、お客様が安全で快適にご使用できるようご協力ください。
- 「保証書」および「取扱説明書」は貴店名、取付年月日を忘れずに記入の上、必ずお客様にお渡しください。
- 人造大理石浴槽、FRP浴槽を廃棄処分する場合は、許可を受けている処理業者に依頼するか、破砕の上許可された処理場にて処理してください。

1. 各部の名称

■各部の名称



2. 安全のために必ずお守りください

ここでは施工に際して守らないと人身事故や、家財の損害に結びつく注意事項を挙げています。
施工前にこの項目をよくお読みいただき正しく施工してください。

◎ 表示内容を無視して誤った施工をしたときに生じる、危害や損害の程度を次の表示マークで区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は「死亡または重傷等を負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

◎ お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

- ⚠ 気を付けていただきたい「注意喚起」の内容です。
- 🚫 行ってはいけない「禁止」の内容です。
- ❗ 必ず実行していただく「強制」の内容です。
- ⏚ 必ずアース線を接続していただく「アース接続」の内容です。
- 分解を行ってはいけない「分解禁止」の内容です。

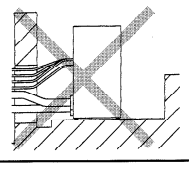
⚠ 警告

電気工事は、関連する法令・法規にしたがって、必ず「有資格者」が行ってください。また、第3種接地工事にもとづいたアース工事を必ず行ってください。
※ 規定以外の工事を行うと、機器の発火や、漏電時に感電する恐れがあります。

当社指定の取扱店以外の人は絶対に分解したり修理、改造は行わないでください。
※ 機器の発火や異状動作でケガをする恐れがあります。

機能部は、浴室内等の湿気の多い場所や換気の悪い場所には設置しないでください。
※ 浴室内や換気の悪い場所に設置すると漏電時に感電事故につながる恐れがあります。

機能部は、水はけの悪い場所や水が流れ込む場所に設置しないでください。
※ 水はけの悪い場所に設置すると、漏電時に感電事故につながる恐れがあります。

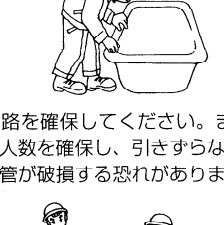


機能部の設置は、自動車の排気ガス等の有害なガスが発生する場所や給湯器の排気ガスが直接かかる場所を避けてください。
※ ジェット及びエアーブローの空気は機能部から取り入れているため、ガス中毒になる恐れがあります。

⚠ 注意

給排水管の接続は必ずシールをしてください。
※ 漏水により家財を汚したり腐らせる恐れがあります。

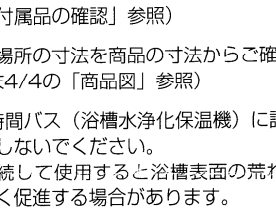
浴槽運搬時には、絶対に配管を持ったり、ぶつけたりしないでください。
※ 配管が破損し漏水する恐れがあります。
※ 浴槽底部裏面にもエアーブロー用配管がありますので浴槽の取扱いには特にご注意ください。



浴槽の上に乗って作業をしないでください。
※ 足を滑らせてケガをしたり、浴槽にキズが付く恐れがあります。

循環釜を取り付ける場合は循環釜の施工説明書もお読みの上、正しく取り付けてください。
なお凍結が予想される地域で石油給湯機付風呂釜、またはガス追焚付給湯器等の強制循環式風呂釜をマルチジェットとセットする場合は、循環釜保護のため追焚配管に必ず凍結防止ヒーターを取り付けてください。
マルチジェットは凍結防止策として浴槽の水を全て排水する必要があります。
※ 取り付けが不完全な場合、漏水により家財を汚したり腐らせる恐れがあります。

浴槽を2階以上の階に施工する場合は、必ず床の防水工事を行ってください。
また機能部を室内や2階以上に設置する場合は、機能部周囲の排水対策を必ず行ってください。
※ 施工に不備があると漏水により家財を汚したり腐らせる恐れがあります。



浴槽と壁・タイルの接合部分は必ず3mm以上のクリアランスをとりシリコンコーキングしてください。
但しオプションの防振材セットをご使用の際は浴槽と建築躯体は3mm以上、シーリング部は10mm（最小5mm）のクリアランスを必ずとってください。
※ 施工に不備があると漏水したり、タイルや浴槽が破損する恐れがあります。
※ 騒音や振動の原因になる恐れがあります。

施工に使用する溶剤・洗剤・接着剤・その他薬品類は容器等に記載の注意表示にしたがって正しく使用してください。
※ 使い方を誤ると人体に悪影響を及ぼしたり使用部材の劣化や損傷の原因になることがあります。

浴槽に循環釜等の穴あけを行うときは浴槽回りの配管にキズ等をつけないようにしてください。
※ 配管が破損し、漏水する恐れがあります。

3. 施工前のご注意

- 浴槽の据付け前に、浴槽本体に破損等がないことを確認してください。
  ※商品には万全を期してありますが輸送等で破損している場合があります。

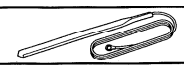
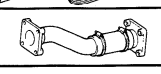
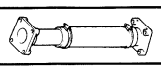
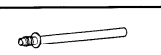
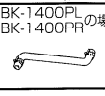
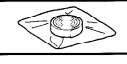
- 必ず搬入経路を確保してください。また、運搬するときは必要人数を確保し、引きずらないでください。
  ※浴槽や配管が破損する恐れがあります。

- 納品された部品の確認を行ってください。
  （「4.付属品の確認」参照）
- 施工場所の寸法を商品の寸法からご確認ください。
  （巻末4/4の「商品図」参照）
- 24時間バス（浴槽水浄化保温機）に該当する機器は使用しないでください。
  ※継続して使用すると浴槽表面の荒れ・退色等を著しく促進する場合があります。
- 本商品に循環釜を取り付ける場合は、1穴タイプの循環釜しか対応できませんのでご注意ください。
- 機能部及びその周辺の点検、修理など保守管理上必要な空間があるかまた水没の危険性がないか確認してください。

4. 付属品の確認

梱包には浴槽、機能部本体の他に次の部品が入っていますのでご確認ください。

■内容品の確認
浴槽部側同梱部品

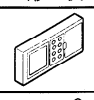
名称		形状	数量
施工説明書			1
取扱説明書			1
保証書			1
アース棒（アース線付き）			1本
接続管セット	接続管（往）（ホースバンド付）		1本
	接続管（戻）（ホースバンド付）		1本
	接続管用　フランジパッキン		4枚
	接続管用　M10ボルト		16本
	エアー接続管（Oリング付）		4本
	エアー接続ホース1（ホースバンド付）	●JBK-1400PL JBK-1400PRの場合 ●JBK-1400PLA JBK-1400PRAの場合	1本
	エアー接続ホース2（ホースバンド付）	●JBK-1400PL JBK-1400PRの場合 ●JBK-1400PLA JBK-1400PRAの場合	1本
	エアー接続ホース3、4共通（ホースバンド付）	●JBK-1400PL JBK-1400PRの場合  ●JBK-1400PLA JBK-1400PRAの場合	2本
	エアー接続管用クイックファスナー		4個
緩衝材			1

株式会社INAX

本　社 ☎ 0569-35-2700
横浜支社 ☎ 045-242-1710
甲信支社 ☎ 0263-36-2166
京滋支社 ☎ 075-222-1794
札幌支社 ☎ 011-271-1701
千葉支社 ☎ 043-227-8171
名古屋支社 ☎ 052-201-1717
広島支社 ☎ 082-223-1710
東北支社 ☎ 022-263-1710
埼玉支社 ☎ 048-668-1177
静岡支社 ☎ 054-251-1710
四国支社 ☎ 0878-21-1701
東京支社 ☎ 03-5541-7111
東関東支社 ☎ 0286-37-3378
北陸支社 ☎ 0762-64-1710
福岡支社 ☎ 092-471-1710
西東京支社 ☎ 0425-27-3
関越支社 ☎ 0273-27-1
大阪支社 ☎ 06-532-6
南九州支社 ☎ 096-322-1

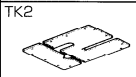
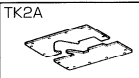
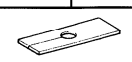
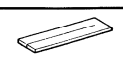
このたびは当社商品をお買い求めいただき誠にありがとうございました。
この施工説明書をよく読み、正しく本商品を施工してください。

機能部側同梱部品

名称		形状	数量
リモコンセット	リモコン本体（パッキン付）		1個
	リモコン取付板（パッキン付）		1枚
	ビス袋 ・M4トラス小ネジ（l=40mm） ・M3.5なべTAIネジ（l=25mm） ・木ネジプラグ（6×20下穴φ4.4） ・M4小型丸平座金		1袋 2本 2本 2本 2個
	リモコンパイプ（内外パイプ組）		1組
	リモコンパイプホルダー		1個
	六角ナット		1個
	配線ケースセット（パッキン付き）		1個
	リモコンコード（5m）		1本

■オプション品

点検口カバーセット（品番：AJB-TK2（JBK-1400PL（R）用）、AJB-TK2A（JBK-1400PL（R）A用））

名称	形状	数量
点検口カバー	TK2  TK2A 	1組
シートA		1
シートB		1
ネジ		14本
プラグ		14本

防振材セット（品番：AJB-VC1）

名称	形状	数量
浴槽用防振材		4個
機能部用防振材（両面テープ付）		4個

延長リモコンパイプ（品番：YE-280-EX）

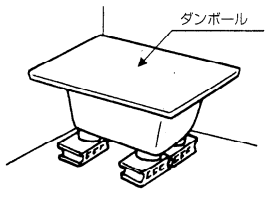
名称	形状	数量
延長リモコンパイプ（50mm延長）		1本

延長リモコンコード

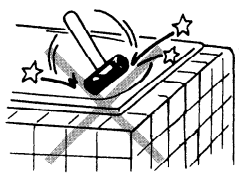
名称	品番	形状	数量
リモコンコード 8m	RC-12A- 8		1本
リモコンコード 10m	RC-12A-10		
リモコンコード 12m	RC-12A-12		
リモコンコード 15m	RC-12A-15		
リモコンコード 20m	RC-12A-20		

5. 施工上のご注意

- 浴槽まわりの配管を破損しないように取扱いには特にご注意ください。
- 施工中は浴槽全体をビニールカバーやダンボール等で保護してください。
  ※浴槽が破損したり、表面にキズが付く恐れがあります。

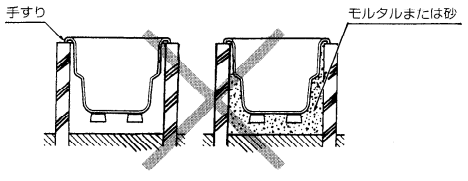


- 絶対に土足でのったり脚立等を浴槽内に立てないでください。
  ※浴槽が破損したり、表面にキズが付く恐れがあります。
- 浴槽の上縁部に重いものを乗せたり、表面にモルタル等を付着させないでください。
  ※浴槽にキズが付く恐れがあります。
- 浴槽に硬いものをぶつけたり、工具等を落とさないでください。
  ※浴槽が破損したり、表面にキズが付く恐れがあります。

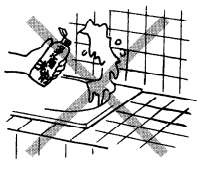


- 浴槽手すり部の養生シートは、施工が完了するまで、はがさないでください。
  ※浴槽表面にキズが付く恐れがあります。ただし、手すり部を埋め込む場合は埋込部のシートのみをはがして施工してください。

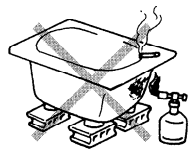
- 接続管の取付けと点検のために点検口を必ず設けてください。
- モルタルや砂で直接浴槽を固定する等、裏面から直接圧力が加わる施工や、手すり部だけで支える施工は絶対にしないでください。
  ※浴槽が破損する恐れがあります。



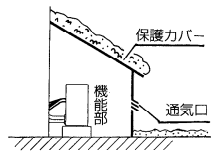
- 浴槽やリモコンにタイル洗いの塩酸等を含んだ洗剤をかけないでください。
  ※浴槽が傷んだり、リモコンが破損する恐れがあります。万一かかった場合は、すぐに水で洗い流してください。



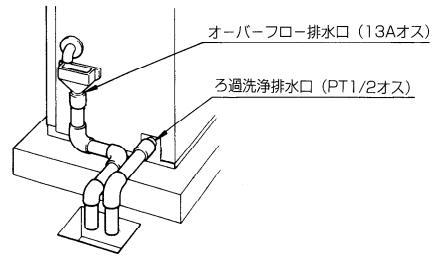
- トーチランプの火や溶接の火花、タバコの火等が浴槽に当たらないようにしてください。
  ※浴槽が破損したり、変色する恐れがあります。
  ※配管が破損する恐れがあります。



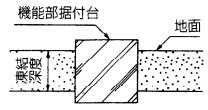
- 接続管取付け後は接続管を持ったり硬いものをぶつける等の強い衝撃を与えないでください。
  ※配管が破損する恐れがあります。
- 海岸地区（塩害を防ぐため）や積雪が予想される地区または雨戸井が機能部の真上にある場合は、保護カバーを取り付けてください。保護カバーには、必ず換気のために通気口等を設けてください。
  ※機能部が腐食したり、雪の重みで機能部が破損する恐れがあります。



- 機能部据付台近くに排水溝を必ず設けてください。



- 凍結の恐れがある地方では、凍結深度以下まで据付台の基礎を設けてください。



- 機能部は直射日光に当たる場所に設置しないでください。万一、設置する場合は日除け等で保護してください。
  ※故障の原因となります。

6. 施工方法

以下の手順に従って、浴槽を施工します。浴槽の施工が終わってから、機能部を施工します。

■浴槽部

6-1 設置場所の寸法確認

商品図を見て、施工場所に浴槽が無理なく搬入、設置できることを確認してください。

6-2 循環釜接続用の穴あけ（循環釜を取り付ける場合）

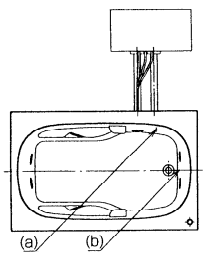
循環釜を取り付ける場合には、浴槽に循環釜接続用の穴あけを行います。
※ 本商品に循環釜を取り付ける場合は、1穴タイプの循環釜しか対応しておりません。ご注意ください。

> ⚠ **注意**
> **循環釜を取り付ける場合は循環釜の施工説明書もお読みの上、正しく取り付けてください。**
> **なお凍結が予想される地域で石油給湯機付風呂釜、またはガス追焚付給湯器等の強制循環式風呂釜をマルチジェットとセットする場合は、循環釜保護のため追焚配管に必ず凍結防止ヒータを取り付けてください。**
> **マルチジェットは凍結防止策として浴槽の水を全て排水する必要があります。**
> **※ 取付けが不完全な場合、漏水により家財を汚したり腐らせる恐れがあります。**

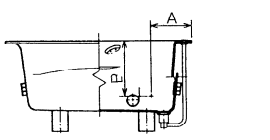
（1）穴あけ位置の確認

循環釜用の穴をあけられるのは、浴槽の長辺方向では吸水口側、短辺方向では排水口側にかぎります。
表中寸法位置が穴あけできる位置です。穴の中心が寸法位置内になるようにしてください。
※ 表中寸法はφ50mmの穴をあける場合の穴あけ中心位置を示します。

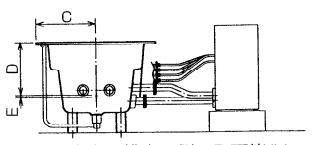
> ● **穴あけ位置（表中寸法位置）以外に穴をあけないでください。**
> **※漏水の原因となります。循環釜の施工説明書もお読みの上、穴をあけてください。**



	A	B	C	D	E
JBK-1400PL	310	420	450	400	20
JBK-1400PR					
JBK-1400PLA					
JBK-1400PRA					



長辺方向は吸水口（機能部接続側）のみ可能(a)



短辺方向は排水口側のみ可能(b)

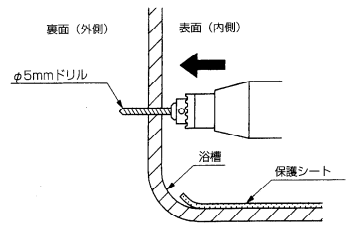
（2）穴あけ方法

> ⚠ **注意**
> **浴槽に循環釜等の穴あけを行うときは浴槽回りの配管にキズ等をつけないようにしてください。**
> **※ 配管が破損し、漏水する恐れがあります。**

手順

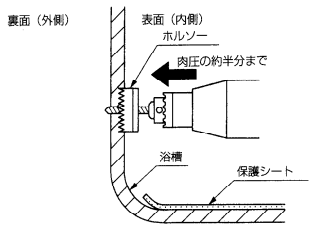
①穴あけ位置を確認後、浴槽表面（内側）から、φ5mmのドリルでセンター穴をあけます。

> ● ドリルはよく切れるものをお使いください。
> そして、穴あけ面と垂直にして、強く押し付けずゆっくりと慎重に行ってください。
> ※穴の周囲が破損する原因となります。



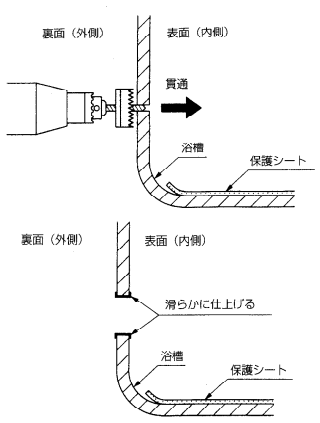
②浴槽表面（内側）からセンター穴をガイドにしてホルソーで肉厚の約半分（約4mm）まで穴をあけます。

> ● ホルソー（超硬刃付き）やホルソーのセンタードリルは、よく切れるものをお使いください。そして、穴あけ面と垂直にして、強く押し付けずゆっくりと慎重に行ってください。
> ※穴の周囲が破損する原因となります。
> ● ホルソーのセンタードリルが浴槽を貫通した際に、ホルソーが浴槽に強くぶつからないように注意してください。
> ※穴の周囲が破損する恐れがあります。
> ● 一気に貫通しないでください。
> ※穴の周囲が破損する恐れがあります。



③浴槽裏面（外側）からホルソーにて貫通穴をあけます。
④穴あけ後はサンドペーパー（#150程度）等で穴の切り口を滑らかに仕上げます。

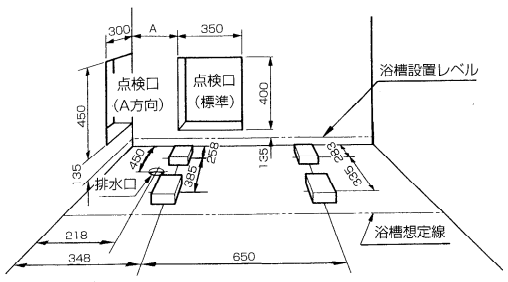
● サンドペーパー等で仕上げる際に、浴槽表面（内側）にキズを付けないようにしてください。



6-3 浴槽の下地作り

図を参考に浴槽の下地作りを行ってください。

Lタイプ浴槽の場合（Rタイプは左右対称）



左図A方向は接続管の短辺取り出し時の点検口の位置です。
A方向：排水口側

(mm)

	A
JBK−1400PL	338
JBK−1400PR	213
JBK−1400PLA	−
JBK−1400PRA	−

⚠ 注意
浴槽を2階以上の階に施工する場合は、必ず床の防水工事を行ってください。
※ 施工に不備があると漏水により家財を汚したり腐らせたりする恐れがあります。

（1） 排水

①排水口の位置を確認し、φ75mm以上の穴を設けます。
● 排水は間接排水としてください。
②排水口へ1/50～1/100程度の排水勾配を設けます。
● 機能部脇にも排水溝が必要です。詳しくは施工手順の「6-8　機能部据付台の下地づくり」をご覧ください。

（2） 壁穴あけ

①接続管の取付けと点検のために、点検口を設けます。オプションの点検口カバーが用意してあります。詳しくは、施工手順の「6-13　点検口カバーの取り付け」をご覧ください。
②リモコン取付け用の穴を目安を参考にあけます。リモコンの取付位置を決める際は必ず施工手順「6-16 リモコンの取付け」をよくお読みの上決めてください。
● 循環金を取り付ける場合は、取付穴を設けてください。

（3） 土台

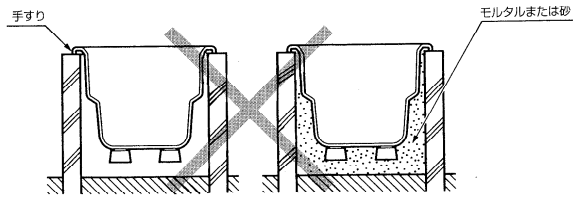
①浴槽の土台にはレンガまたはブロックを使用し、上面が水平になるように固定します。

[防振]

● 集合住宅や階上設置の場合、また周囲への騒音や振動が問題となるような場合には、防振材（オプション）を施工してください。
※防振材を使用するだけでは十分な防振効果を発揮できないことがあります。併せて建築側でも防音・防振対策を行ってください。
※防振材セットを用いて防振工事を行う場合には、取合いが異なりますのでご注意ください。詳しくは、施工手順の「6-6　防振材の施工（浴槽部）（オプション）」をご覧ください。

6-4 浴槽の据付け

● モルタルが固まるまで浴槽に乗ったり、接続管や釜を取り付けないでください。
※浴槽がかたむいたり、沈下する場合があります。
● モルタルや砂で直接浴槽を固定する等、裏面から直接圧力が加わる施工や、手すり部だけで支える施工は絶対にしないでください。
※浴槽が破損したり、騒音や振動の原因になります。

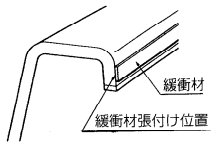


⚠ 注意
浴槽と壁・タイルの接合部分は必ず3mm以上のクリアランスをとりシリコンコーキングしてください。但しオプションの防振材セットをご使用の際は浴槽と建築駆体は3mm以上、シーリング部は10mm（最小5mm）のクリアランスを必ずとってください。
※ 施工に不備があると漏水したり、タイルや浴槽が破損する恐れがあります。
※ 騒音や振動の原因になる恐れがあります。

浴槽の据付けは以下の手順で行います。防振材使用の場合は、「6-6　防振材の施工（浴槽部）（オプション）」の手順に従って据え付けてください。

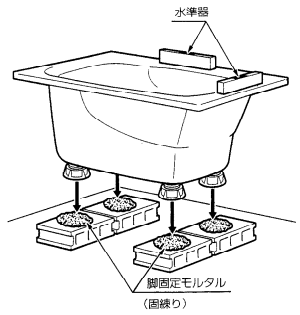
[緩衝材について]

● 緩衝材は張り付けたまま施工してください。
● エプロンなしの場合には、手すり部側面には、緩衝材が張られておりません。「6-5　浴室内の仕上げ」の「施工例1」、「施工例5」のような場合には必ず同梱の緩衝材を手すり部側面に張り付けた後に（右図参照）施工してください。



手順

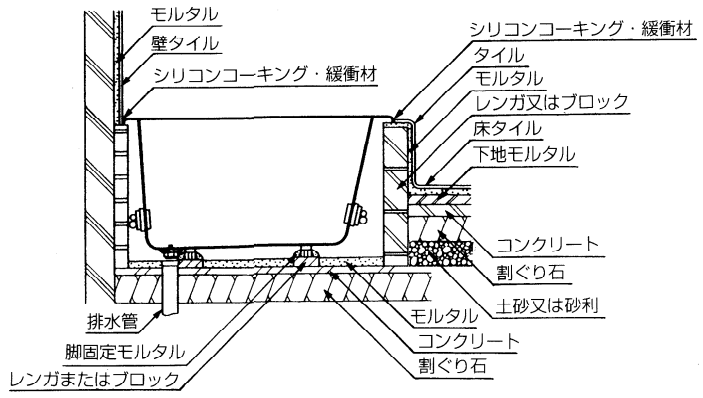
①浴槽の土台に、モルタル（固練り）を盛ります。
②浴槽を土台にのせ、浴槽のレベルに注意しながら徐々に浴槽を押し下げます。
③水準器を浴槽の上面に載せ、浴槽の水平を出します。
※水平がとれていないと、排水後に浴槽内に水が残ることがあります。
④プッシュワンウェイ排水栓の場合、排水栓が作動するか確認してください。
※プッシュワンウェイ排水栓作動確認後は、養生シートをもとの状態に戻してください。



6-5 浴室内の仕上げ

浴室内の仕上げを行います。以下の注意事項に汁意して施工してください。点検口部の仕上げは、機能部設置後行ってください。詳しくは、施工手順の「6-13　点検口カバーの取付け」をご覧ください。

（1） 施工例



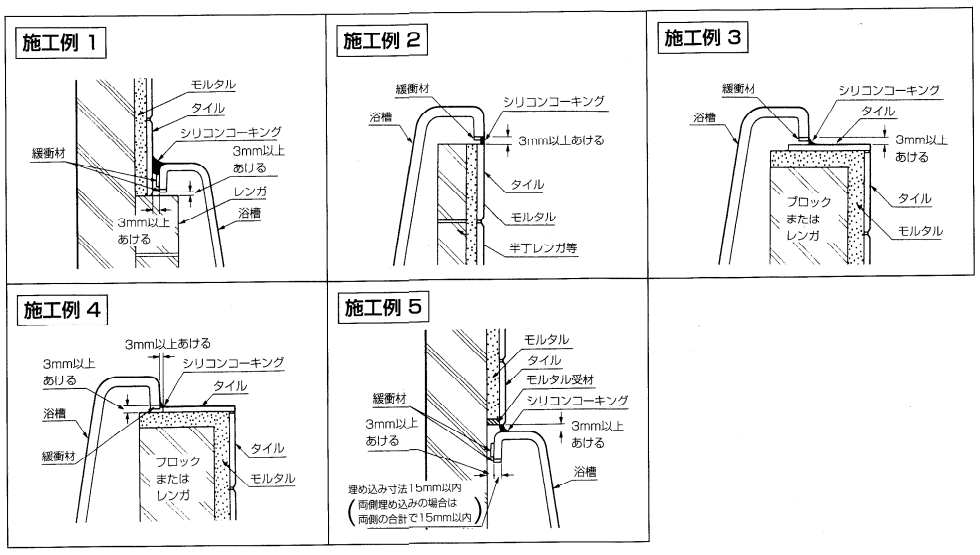
● コーキングにはシリコンコーキングを用い、セメントメジは使わないでください。
※浴槽の熱膨張などにより、タイルや浴槽が破損する恐れがあります。

（2） 手すり部の取合い

手すり部の取合いでは、特に以下のことに注意して施工してください。

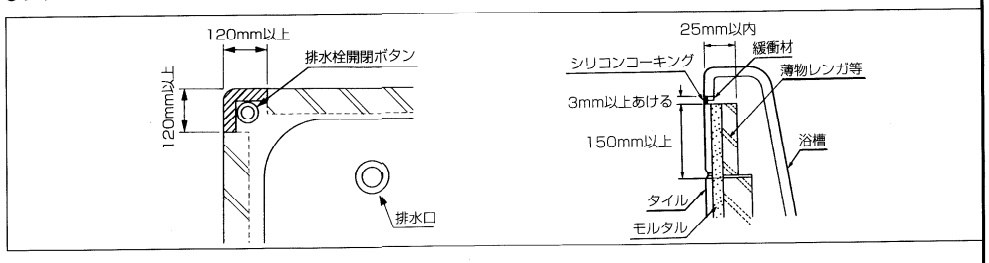
● 「施工例5」のように手すり部を壁に埋め込む場合、埋込寸法は15mm以内にしてください。
（浴槽の両側を埋め込む場合には両側の合計で15mm以内にしてください。）
※風呂フタが置けなくなったり、はみ出したりする場合があります。
※プッシュワンウェイ排水栓の場合は、排水栓開閉ボタンに風呂フタが当たる場合があります。
● 浴槽まわりの配管がブロックやレンガとあたらないように注意してください。

■手すり部取合い例



■プッシュ式排水栓取合い例

●プッシュワンウェイ排水栓がブロックやレンガと当たらないようにしてください.



6-6 防振材の施工（浴槽部）（専用オプション）

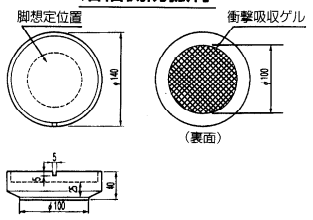
集合住宅や階上設置の場合、また周囲への騒音や振動が問題となるような場合、防振材の施工を行います。
※ 防振材を使用するだけでは十分な防振効果を発揮できないことがあります。併せて建築側でも防音・防振対策を行ってください。
※ 防振材セットを用いて防振工事を行う場合には、取合いが異なりますのでご注意ください。

⚠ 注意
浴槽を2階以上の階に施工する場合は、必ず床の防水工事を行ってください。
※ 施工に不備があると漏水により家財を汚したり腐らせる恐れがあります。

⚠ 注意
浴槽本体と建築駆体は3mm以上、シーリング部は10mm（最小5mm）のクリアランスを必ずとってください。
※ 施工に不備があると漏水したりタイルや浴槽が破損する恐れがあります。
※ 防振効果が発揮されない恐れがあります。

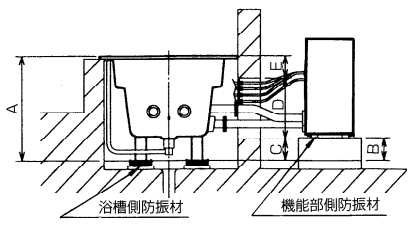
● 浴槽部だけでなく、浴槽、機能部の両方に防振材（オプション）を施工してください。一方だけに防振工事をすると、充分な効果が発揮されません。機能部防振材施工方法は、「6-10　防振材の施工（機能部）（オプション）」を参照してください。

浴槽側防振材



手順

防振材使用時の納まり図



品番	A	B	C	D	E
JBK-1400PL	685	144	135	400	150
JBK-1400PR					
JBK-1400PLA				450	100
JBK-1400PRA					

（1）浴槽設置のための下地づくり

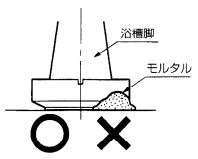
①台座用レンガまたはブロック等の設置台を浴槽の脚位置に合わせて配置し、全て同じレベルにして固定します。

● 防振材の寸法を確認して下記寸法程度の設置台を設けてください。
設置台寸法：300×300×60
※必ず防振材が完全に載る大きさの設置台を設けてください。
● 防振材を使用した場合浴槽設置レベルが、防振材の高さ（25mm）分高くなります。点検口の開口及び壁や床との取合いに注意してください。（右図参照）

（2）浴槽の据付け

①防振材を浴槽の脚位置に合わせて設置台の上に置きます。衝撃吸収ゲルの付いた面が下になります。

● 設置台上の小石、砂等をよく取り除いてください。
● 防振材はモルタル等で設置台と固定しないでください。（右図参照）
※防振効果がなくなります。
● 衝撃吸収ゲルは取り除かないでください。
※防振効果がなくなります。



②防振材の上部凹部にモルタル（固練り）を盛ります。

● モルタルの割れ防止のために盛り高さは10mm以上にしてください。

③浴槽を防振材の中央に載せ、浴槽のレベルに注意しながら徐々に浴槽を押し下げます。
④水準器を浴槽の上面に載せ、浴槽の水平を出します。
※水平がとれていないと、排水後に浴槽内に水が残ることがあります。

● モルタルが固まるまで浴槽に乗ったり、接続管や釜を取り付けないでください。
※浴槽がかたむいたり沈下する場合があります。

6-7 接続管の取付け（浴槽側）

浴槽の据付けが終了し、モルタルが完全に固まったら、接続管を取り付けます。接続管の取付けは、点検口から行います。機能部設置場所との関係で延長配管が必要な場合には、「6-12　接続管の延長」を先に行ってください。

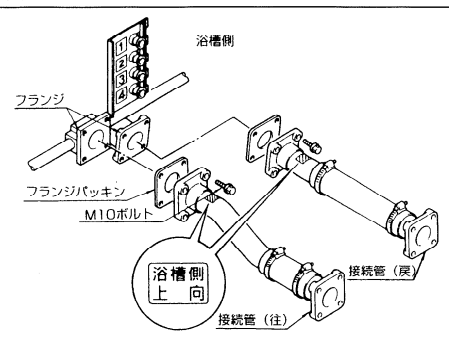
● 接続管取付け後は接続管を持ったり硬いものをぶつける等の強い衝撃を与えないでください。
※配管が破損する恐れがあります。

手順

■標準取出しの場合（JBK-1400PL, JBK-1400PR）

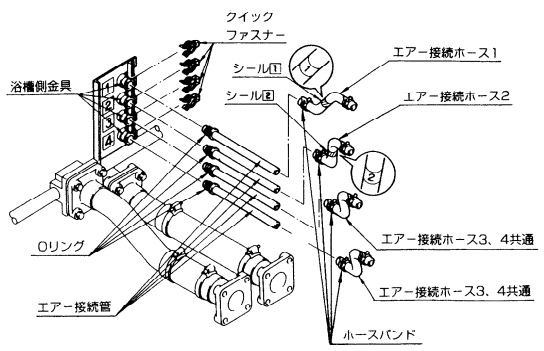
①屋外点検口から浴槽配管接続部を確認します。
②浴槽配管、接続管内に異物がないことを確認します。
③接続管（往・戻）とフランジの間にフランジパッキンを挟み、M10ボルトで固定します。

● 接続管（往）と接続管（戻）の浴槽側上向シールに合わせ接続方向を確認してください。
● フランジパッキン、フランジ、接続管に砂等の異物が付着していないことを確認してください。
● 浴槽側配管に無理な力が加わらないよう十分注意してください。
※作動不良や漏水の原因となります。

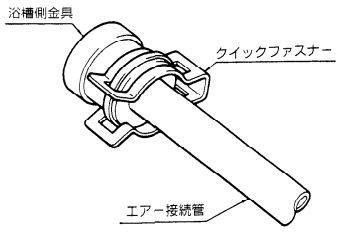


④エアー接続管（1〜4共通）にOリングが取り付けられていることを確認し、浴槽の浴槽側金具に差し込みます。

● Oリングに砂等の異物が付着していないことを確認してください。
● 接続管は必ずまっすぐ差し込んでください。
※作動不良や漏水の原因となります。
● 浴槽側配管に無理な力が加わらないよう十分注意してください。
※作動不良や漏水の原因となります。
● Oリングが硬くて入りにくい時は、ゴム用シリコングリースをOリングに塗ってください。
シリコングリース以外の鉱物油等は絶対に使用しないでください。
※漏水の原因となります。



⑤クイックファスナーをはめ込みます。



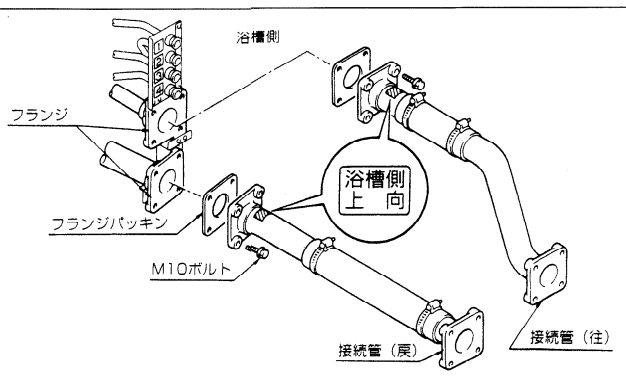
⑥クイックファスナーとフランジが確実にかみ合っていることを確認します。
⑦エアー接続ホース（4本）をエアー接続管（4本）に接続してください。

● エアー接続ホースは1（シール付き）、2（シール付き）の各1本、シールのないものは2本、合計4本があります。浴槽金具の番号に合わせて、1、2を接続してください。残り2本は区別がありませんので各々接続してください。
● エアー接続ホースの差込みは20〜30mmが適正です。
● 4本すべてホースバンドで締め付けてください。
● エアー接続ホース、エアー接続管に異物が付着していないことを確認してください。
● 浴槽側配管に無理な力が加わらないよう十分注意してください。
※作動不良や漏水の原因となります。
● エアー接続ホースが硬くて入りにくい時は、ゴム用シリコングリースをエアー接続ホースに塗ってください。
シリコングリース以外の鉱物油等は絶対に使用しないでください。
※ホースが破損する恐れがあります。

■短辺取出しの場合（JBK-1400PLA、JBK-1400PRA）

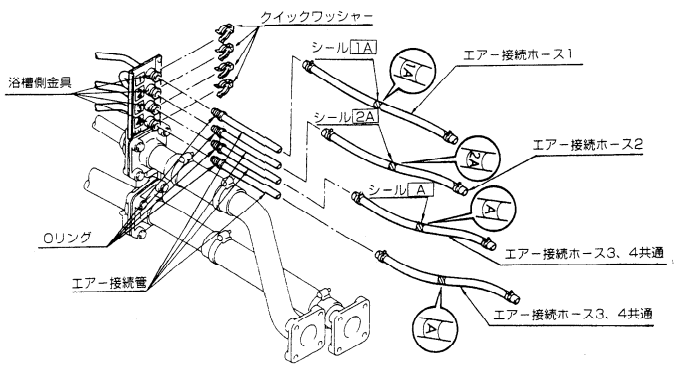
①屋外点検口から浴槽配管接続部を確認します。
②浴槽配管、接続管内に異物がないことを確認します。
③接続管（往・戻）とフランジの間にフランジパッキンを挟み、M10ボルトで固定します。

● 接続管（往）と接続管（戻）の浴槽側上向シールに合わせ接続方向を確認してください。
● フランジパッキン、フランジ、接続管に砂等の異物が付着していないことを確認してください。
● 浴槽側配管に無理な力が加わらないよう十分注意してください。
※作動不良や漏水の原因となります。

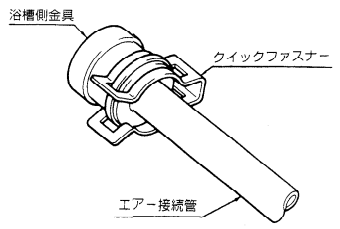


④エアー接続管（1〜4共通）にOリングが取り付けられていることを確認し、浴槽の浴槽側金具に差し込みます。

● Oリングに砂等の異物が付着していないことを確認してください。
● 接続管は必ずまっすぐ差し込んでください。
※作動不良や漏水の原因となります。
● 浴槽側配管に無理な力が加わらないよう十分注意してください。
※作動不良や漏水の原因となります。
● Oリングが硬くて入りにくい時は、ゴム用シリコングリースをOリングに塗ってください。
シリコングリース以外の鉱物油等は絶対に使用しないでください。
※漏水の原因となります。



⑤クイックファスナーをはめ込みます。



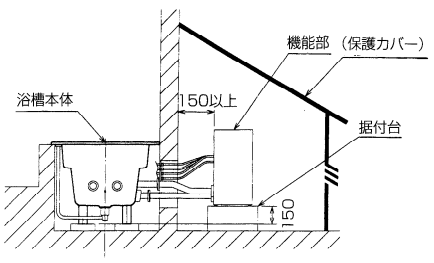
⑥クイックファスナーとフランジが確実にかみ合っていることを確認します。
⑦エアー接続ホース（4本）をエアー接続管（4本）に接続してください。

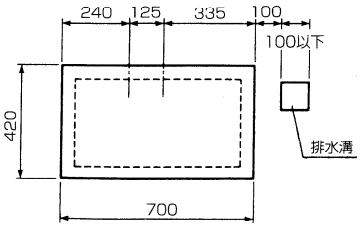
● エアー接続ホースは1（シール付き）、2（シール付き）の各1本、シールのないものは2本、合計4本があります。浴槽金具の番号に合わせて、1、2を接続してください。残り2本は区別がありませんので各々接続してください。
● エアー接続ホースの差込みは20〜30mmが適正です。
● 4本すべてホースバンドで締め付けてください。
● エアー接続ホース、エアー接続管に異物が付着していないことを確認してください。
● 浴槽側配管に無理な力が加わらないよう十分注意してください。
※作動不良や漏水の原因となります。
● エアー接続ホースが硬くて入りにくい時は、ゴム用シリコングリースをエアー接続ホースに塗ってください。
シリコングリース以外の鉱物油等は絶対に使用しないでください。
※ホースが破損する恐れがあります。

6-8 機能部据付台の下地づくり

下図参照の上、浴槽との取合いに注意して据付台を設けてください。

- 機能部底部のアジャスタボルトにより、約＋10mmの高さ調節が可能です。（「6-9　機能部の据付け」参照）





⚠ 警告

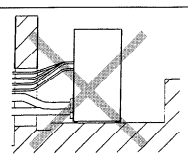
機能部は浴室内等の湿気の多い場所や、換気の悪い場所には設置しないでください。

※ 浴槽内や換気の悪い場所に設置すると漏電時に感電事故につながる恐れがあります。

⚠ 警告

機能部は、水はけの悪い場所や水が流れ込む場所に設置しないでください。

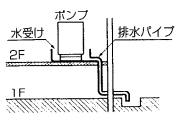
※ 水はけの悪い場所に設置すると、漏電時に感電事故につながる恐れがあります。



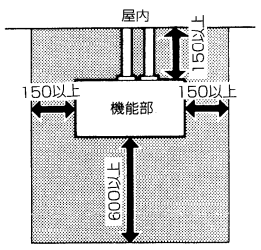
⚠ 注意

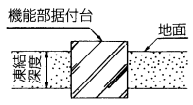
●機能部を室内や2階以上に設置する場合は、機能部周囲の排水対策を必ず行ってください。

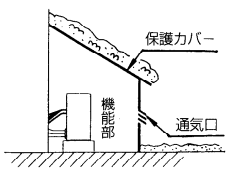
※ 施工に不備があると漏水により家財を汚したり腐らせたりする恐れがあります。



- 点検、接続管接続のために、機能部周辺には右図のような余裕をとってください。
- 機能部を出窓下に設置する場合は、機能部とのクリアランスを100mm以上設けてください。
- 地面凍結の恐れのある地方では、据付台の基礎を凍結深度以下まで設けてください。（右図を参照）
- 機能部からは、ろ材洗浄水、循環水のオーバーフロー水等の排水があります。この排水を流せるよう必ず排水溝を設けてください。
- 海岸地区（塩害を防ぐため）や積雪が予想される地区または雨どいが機能部の真上にある場合は、保護カバーを取り付けてください。保護カバーには換気のために必ず通気口等を設けてください。
  ※機能部が腐食したり、雪の重みで機能部が破損する恐れがあります。（右図を参照）
- 集合住宅や階上設置の場合、また周囲への騒音や振動が問題となるような場合には、防振材（オプション）を施工してください。
  ※防振材セットを用いて防振工事を行う場合には、取合いが異なりますのでご注意ください。詳しくは、施工手順の「6-10　防振材の施工（機能部）（オプション）」をご覧ください。
  ※防振材を使用するだけでは十分な防振効果を発揮できないことがあります。併せて建築側でも必ず防音・防振対策を行ってください。





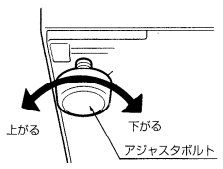


6-9 機能部の据付け

手順

①据付台に機能部をのせます。

②機能部の接続管接続口と浴槽部の接続管接続口のセンターが合うよう、機能部底面のアジャスタボルトで高さの微調節を行います。（調節範囲　約＋10mm）



- 接続間の水平出しをする際に再度調節してください。
  ※アジャスタボルトで対応できないときは、鉄板等の調節板を使用して調節してください。
- アジャスタボルト調節時など、機能部を横倒しにしたり大きく傾けたりしないでください。
  ※内部のろ材が流出する恐れがあります。
- 機能部は屋外設置のため、ケーシングは必ず取り付けた状態で施工してください。

6-10 防振材の施工（機能部）（専用オプション）

集合住宅や階上設置の場合、また周囲への騒音や振動が問題となるような場合には、防振材（オプション）を施工してください。

※ 防振材を使用するだけでは十分な防振効果を発揮できないことがあります。併せて建築側でも必ず防音・防振対策を行ってください。

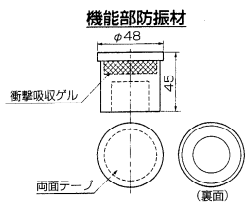
※ 防振材セットを用いて防振工事を行う場合には、取合いが異なりますのでご注意ください。

⚠ 注意

機能部を室内や2階以上に設置する場合は、機能部周囲の排水対策を必ず行ってください。

※ 施工に不備があると漏水により家財を汚したり腐らせる恐れがあります。

- 機能部だけでなく、浴槽、機能部の両方に防振材（オプション）を施工してください。一方だけに防振工事をすると、十分な効果が発揮されません。浴槽部防振材施工方法は「6-6　防振材の施工（浴槽部）（オプション）」を参照してください。
- 防振材の取り付けの際、機能部を横倒しにしたり、大きく傾けたりしないでください。
  ※内部のろ材流出の原因となります。

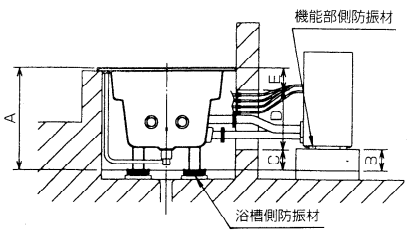


手順

(1)　機能部据付けの下地づくり

①防振材の高さを考慮して、右図を参照の上、据付台を設けてください。

- 防振材を使用した場合、アジャスタ機能が使用できなくなり、さらにレベルが6mm高くなります。

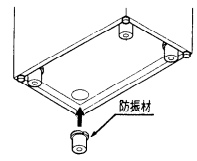


品番	A	B	C	D	E
JBK-1400PL	685	141	135	400	150
JBK-1400PR					
JBK-1400PLA				450	100
JBK-1400PRA					

(2)　機能部防振材の取付け

①機能部底面のアジャスタボルトを上まで完全に締めます。

- アジャスタボルトを機能部設置台に接触させないでください。
  ※防振効果がなくなります。



②防振ゴムの両面テープの離形紙をはがし、機能部底面の4隅に張り付けます。

- 機能部裏面にはネジ先端が出ています。防振材の取付けの際は、ケガをしないようにしてください。
- 防振材は、機能部底面のネジ先、ベースの折り返し部を避けて、四隅に両面テープで張り付けてください。
  ※機能部が不安定になり、防振効果が薄れます。
- 防振材の上蓋がはずれたら、そのままはめなおしてください。
- 防振材内の衝撃吸収ゲルは取り出さないでください。
  ※防振効果がなくなります。

(3)　機能部の据付け

①据付台に機能部をのせます。

- 機能部の接続管接続口と浴槽部の接続管接続口のセンターが合うように機能部を据え付けてください。
- 防振材使用時は機能部のアジャスタ機能が使えません。鉄板等の調節板を使用してレベルを調節してください。
- 据付け時に防振材が外れないよう慎重に据え付けてください。

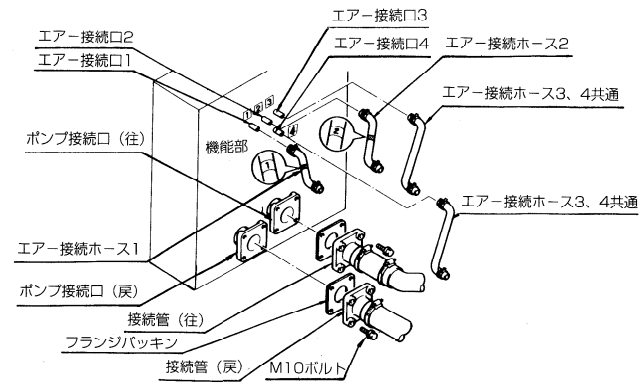
6-11 接続管の取付け（機能部側）

機能部の据付けが終了したら、接続管を取り付けます。機能部設置場所の関係で延長配管が必要な場合には、「6-12　接続管の延長」を先に行ってください。

- 接続管取付け後は接続管を持ったり硬いものをぶつける等の強い衝撃を与えないでください。
  ※配管が破損する恐れがあります。

手順

■標準取出しの場合（JBK-1400PL、JBK-1400PR）



①接続管接続部、接続管内に異物がないことを確認します。

②接続管と接続口の間にフランジパッキンを挟みM10ボルトで固定します。

- フランジパッキン、ポンプ接続口、接続管に砂等の異物が付着していないことを確認してください。
- 浴槽側配管に無理な力が加わらないよう十分注意してください。
  ※作動不良や漏水の原因となります。

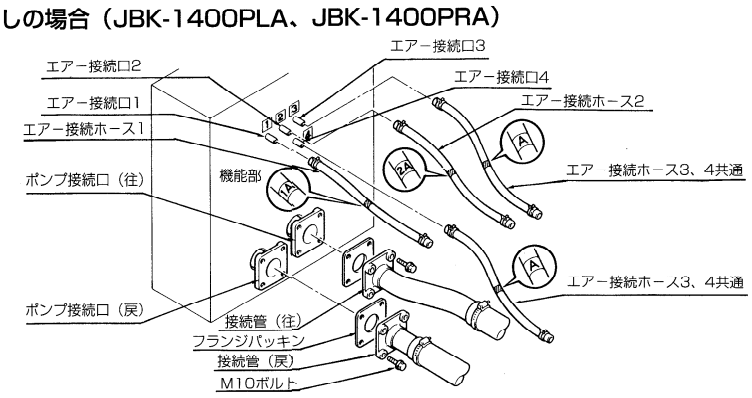
③エアー接続ホース（4本）をエアー接続口に接続します。

- 機能部のエアー接続口の番号と浴槽側金具の番号が合うようにエアー接続ホースを接続してください。
- エアー接続ホースの差込みは20～30mmが適正です。
- 4本すべてホースバンドで締め付けてください。
- エアー接続ホースが硬くて入りにくい時は、ゴム用シリコングリースをエアー接続ホースに塗ってください。
  シリコングリース以外の鉱物油等は絶対に使用しないでください。
  ※ホースが破損する恐れがあります。

④接続管の水平を水準器で確認します。

- 機能部底面のアジャスタボルトで高さの微調節を行います。（「6-9機能部の据付け」参照）
  ※アジャスタボルトで対応できないときは、鉄板等の調節板を使用してください。
  ※接続管が水平に取り付けられていない場合は、噴流が出なくなったり、残留水が凍結する恐れがあります。

■短辺取出しの場合（JBK-1400PLA、JBK-1400PRA）



①接続管接続部、接続管内に異物がないことを確認します。

②接続管と接続口の間にフランジパッキンを挟みM10ボルトで固定します。

- フランジパッキン、ポンプ接続口、接続管に砂等の異物が付着していないことを確認してください。
- 浴槽側配管に無理な力が加わらないよう十分注意してください。
  ※作動不良や漏水の原因となります。

③エアー接続ホース（4本）をエアー接続口に接続します。

- 機能部のエアー接続口の番号と浴槽側金具の番号が合うようにエアー接続ホースを接続してください。
- エアー接続ホースの差込みは20～30mmが適正です。
- 4本すべてホースバンドで締め付けてください。
- エアー接続ホースが硬くて入りにくい時は、ゴム用シリコングリースをエアー接続ホースに塗ってください。
  シリコングリース以外の鉱物油等は絶対に使用しないでください。
  ※ホースが破損する恐れがあります。

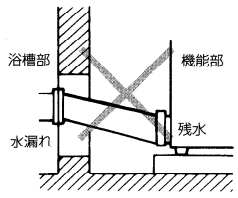
④接続管の水平を水準器で確認します。

- ●機能部底面のアジャスタボルトで高さの微調節を行います。（「6-9機能部の据付け」参照）
  ※アジャスタボルトで対応できないときは、鉄板等の調節板を使用してください。
  ※接続管が水平に取り付けられていない場合は、噴流が出なくなったり、残留水が凍結する恐れがあります。

水平でない場合、以下のような不都合が生じます。

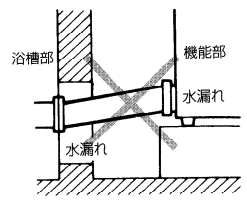
[機能部側が低い場合]

- 浴槽側では水漏れの原因となります。
- 浴槽水を排水しても機能部内に水が残り、水あかが発生します。
- 配管内の残水が凍結する恐れがあります。



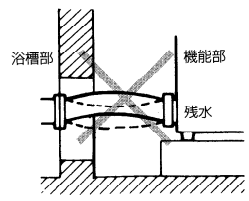
[機能部側が高い場合]

- 機能部側、浴槽側両方で水漏れの原因となります。
- 機能部内のエアーが抜けず、機能部が作動しなかったり空運転します。
  水流が出ません。
  ※空運転が続くと機能部が破損する恐れがあります。



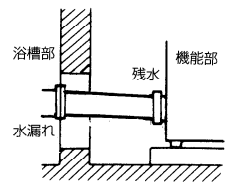
[接続管を上下方向に曲げた場合]

- 機能部内のエアーが抜けず、機能部が作動しなかったり空運転します。
  水流が出ません。
  ※空運転が続くと機能部が破損する恐れがあります。
- 浴槽水を排水しても機能部内に水が残り、水あかが発生します。
- 配管内の残水が凍結する恐れがあります。



[配管精度が充分確保できない場合]

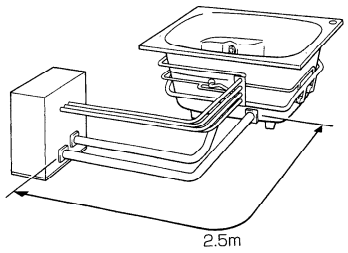
配管精度が十分確認できない場合は浴槽側から機能部に向かって1／100以内の勾配を設けて機能部を設置してください。
(但し、若干の残留水が発生します。)
また、接続管接続部より水漏れがないことを十分確認してください。



6-12 接続管の延長

機能部の設置場所が標準仕様以外の所へくる場合等、やむをえず標準配管で施工できない場合には、全長2.5m以内、曲がりは2ヶ所以内に限って接続管の延長が行えます。水配管用には市販の銅パイプ（2インチMタイプ）、銅エルボ（2インチ）、銅ソケット（2インチ）、エアー配管用には市販の銅パイプ（3／8インチMタイプ）、銅エルボ（3／8インチ）、銅ソケット（3／8インチ）を使用します。

- 配管の延長は極力抑えてください。延長する場合は、必ず全長2.5m以内、曲がりは2ヶ所以内としてください。
  ※接続管が長く、曲がりが多いほど配管内の圧力が下がり、ジェット噴射能力が低下します。
- 接続管の上下方向の曲がりは、絶対しないでください。
  ※上下方向の曲がりは空運転をまねき、水流が出なくなります。
- 接続管のろう付け作業は必ず浴槽、機能部から外した状態で行ってください。
  ※浴槽、機能部の配管破損の原因となります。
- ろう付けの際は、Oリングにキズがつかないように外してください。またOリング取付時はキズに注意し確実に取り付けてください。
  ※接続管のOリングに火を直接近づけると破損や漏水の原因となります。
- 凍結対策として接続管に保温材を取り付けてください。
  ※凍結により破損する恐れがあります。



手順

■標準取出しの場合（JBK-1400PL、JBK-1400PR）

①現場の状況によって延長配管を設計します。全長2.5m以内曲がり2ヵ所以内です。
②接続管（往）と接続管（戻）の分離
接続管（往）と接続管（戻）について各々片側のホースバンドをゆるめてホースを外し分離します。

- ● この時接続管に張ってある浴槽側上向シールを確認し、分離してください。

(2) 接続管の延長

③分離した接続管（往）Aおよび接続管（戻）Aに市販の銅パイプ（2インチMタイプ）、銅エルボ（2インチ）、銅ソケット（2インチ）を使用してろう付配管します。(部品は現地調達)
④接続管（往）Bおよび接続管（戻）Bを接続し、ホースバンドを締め付けます。

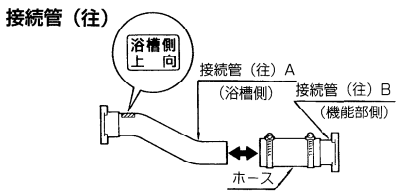
- ● 接続管（往）Aと接続管（戻）Aは浴槽側上向シールに合わせ接続方向を確認してください。

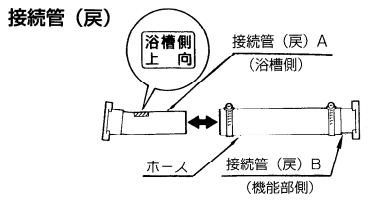
⑤エアー接続管の延長は、市販の銅パイプ（3/8インチMタイプ）、銅エルボ（3/8インチ）、銅ソケット（3/8インチ）を使用してろう付配管します。(部品は現地調達)

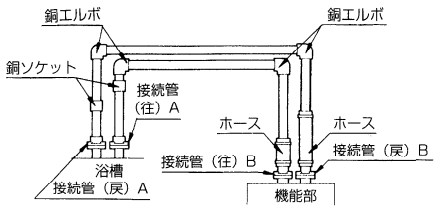
⑥機能部のエアー接続口の番号と浴槽側金具の番号が合うようにホースを接続し、ホースバンドで締め付けます。(ホース差込みは20～30mmが適正です。)

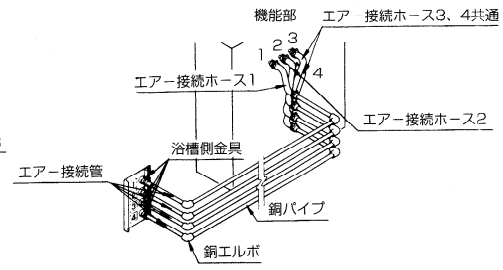
- ● エアー配管は水平もしくは機能部に向かって上り勾配としてください。
- ● 凍結の心配がある場合は保温材を巻く等の凍結防止策を取ってください。

⑦接続管を水平に保つために接続管の下にブロック等を置き、さらに配管1mにつき1ヶ所の割で配管を支持してください。
配管支持には別途用意した配管バンド等を使用してください。
⑧水準器などで配管の水平を充分確認します。









■短辺取出しの場合（JBK-1400PLA、JBK-1400PRA）

①現場の状況によって延長配管を設計します。全長2.5m以内曲がり2ヵ所以内です。
②接続管（往）と接続管（戻）の分離
接続管（往）と接続管（戻）について各々片側のホースバンドをゆるめてホースを外し分離します。

- ● この時接続管に張ってある浴槽側上向シールを確認し、分離してください。

(2) 接続管の延長

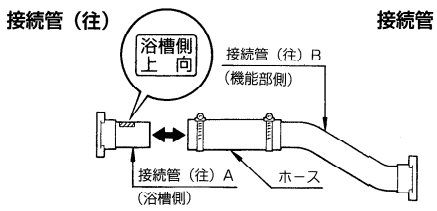
③分離した接続管（往）Aおよび接続管（戻）Aに市販の銅パイプ（2インチMタイプ）、銅エルボ（2インチ）、銅ソケット（2インチ）を使用してろう付配管します。(部品は現地調達)
④接続管（往）Bおよび接続管（戻）Bを接続し、ホースバンドを締め付けます。

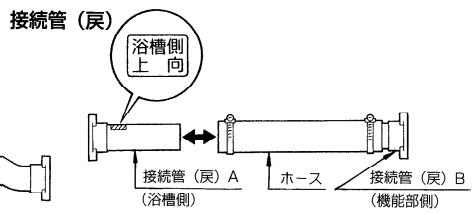
- ● 接続管（往）Aと接続管（戻）Aは浴槽側上向シールに合わせ接続方向を確認してください。

⑤エアーの接続管の延長は、市販の銅パイプ（3/8インチMタイプ）、銅エルボ（3/8インチ）、銅ソケット（3/8インチ）を使用してろう付配管します。(部品は現地調達)
⑥機能部のエアー接続口の番号と浴槽側金具の番号が合うようにホースを接続し、ホースバンドで締め付けます。(ホース差し込みは20～30mmが適正です。)

- ● エアー配管は水平もしくは機能部に向かって上り勾配としてください。
- ● 凍結の心配がある場合は保温材を巻く等の凍結防止策を取ってください。

⑦接続管を水平に保つために接続管の下にブロック等を置き、さらに配管1mにつき1ヶ所の割で配管を支持します。
配管支持には別途用意した配管バンド等を使用してください。
⑧水準器などで配管の水平を充分確認します。





6-13 点検口カバーの取付け

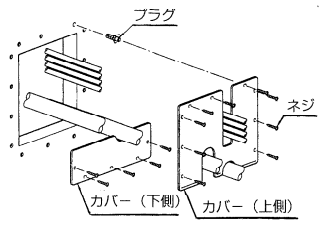
据付け、接続管の取付け後に点検口にカバーを取り付けます。オプションで点検口カバー（品番：AJB-TK2、AJB-TK2A）が用意されています。オプションの点検口カバーを使用しない場合には、現地で用意し、同様の手順でカバーを取り付けてください。

- ● 点検口をモルタルなどでふさがないでください。
  ※騒音の原因やメンテナンス時に点検ができなくなります。

手順

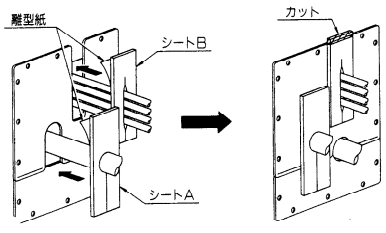
■標準取出しの場合（AJB-TK2）

①点検口の位置を確認します。
②プラグを取り付けた後、カバーをネジで固定します。

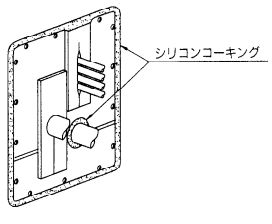


③シート裏面の離型紙を取り、接着固定します。

- ● シートは、カバーの養生テープをはがしてから張り付けてください。

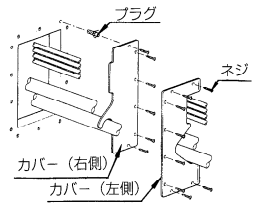


④カバー外周と配管のすき間をコーキングします。



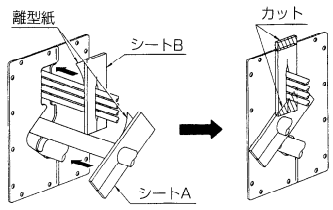
■短辺取出しの場合（AJB-TK2A）

①点検口の位置を確認します。
②プラグを取り付けた後、カバーをネジで固定します。

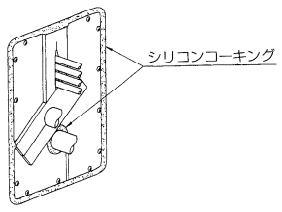


③シート裏面の離型紙を取り、接着固定します。

- シートは、カバーの養生テープをはがしてから張り付けてください。

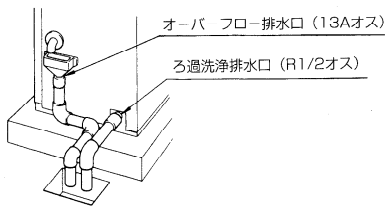


④カバー外周と配管のすき間をコーキングします。



6-14 排水配管

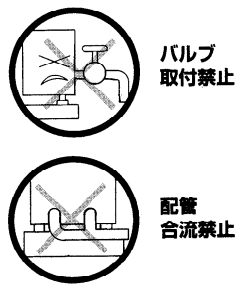
機能部からは、ろ材洗浄水とオーバーフロー水の2種類の排水があります。機能部排水口から排水溝まで2本の排水配管を施工します。先端は排水溝と直結せず、排水口空間を設けます。



手順

①ろ材洗浄排水口とオーバーフロー排水口に別々に排水配管をし、排水溝に導きます。

- オーバーフロー排水管は排水溝まで必ず13Aの配管で導いてください。
- 排水口先端は排水溝と直結せず、排水口空間を設けてください。
  ※排水が浴槽内に逆流します。
- 排水口には絶対バルブを付けないでください。
  ※排水が浴槽内に逆流します。
- ろ材洗浄排水管とオーバーフロー排水管は接続しないでください。
  ※排水が浴槽内に逆流します。
- 排水溝が遠く配管を延長した場合は、必ず下り勾配とし、保温材を巻くなどの凍結防止策を施してください。
- 排水配管の曲がり部は、極力1ヶ所としてください。



6-15 電源の確保とアース工事

機能部用に屋外に防雨型の電源コンセントを確保します。電源確保とアースの工事は、資格が必要ですので、電力会社の指定工事店に依頼してください。工事は電気設備基準に準じて行ってください。

⚠ 警告
電気工事は、関連する法令・法規にしたがって、必ず「有資格者」が行ってください。
※ 規定以外の工事を行うと、機器の発火や、漏電時に感電する恐れがあります。

⚠ 警告
第3種接地工事に準じ、アース棒を使用したアース工事を行ってください。
※ アース工事が行われていないと、漏電時に感電する恐れがあります。

手順

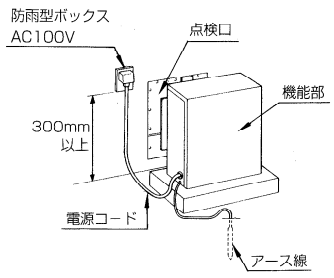
[電源コードの接続]

①専用配線をします。
機能部の電源は交流100V（50／60Hz）消費電力は最大1100Wです。

- 20A容量の専用配線をしてください。

②コンセントは20A・125Vの電源コンセント（松下電工製WK1221）を使用し、地上300mm以上の位置に防雨形ボックスを設けて、その内に取り付けます。

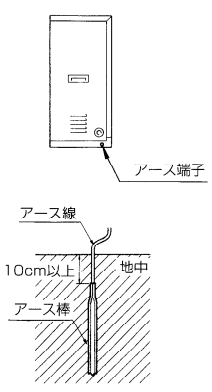
- 電源コードの有効長さは2mです。機能部から2m以内に専用のコンセントを設けてください。



[アースの接続]

①付属のアース棒を使い必ずアース工事（第3種接地工事）を行います。

- 付属のアース棒の端子部を機能部下部のアース端子に接続してください。
- アース棒は日当たりの悪い湿気の多い場所に打ち込んでください。
- アース棒は地中深さ10cm以上の穴を掘り、穴の底に打ち込んでください。
- 水道管やガス管への接続および他器具とのアースの共用は絶対にしないでください。



6-16 リモコンの取付け

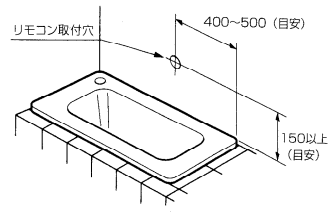
- リモコンにタイル洗いの塩酸等を含んだ洗剤をかけないでください。
  ※ リモコンが破損する恐れがあります。
  カーかかった場合は、すぐに水で洗い流してください。

（1） 設置場所の選定

リモコンの設置場所を決めます。右図目安を参考に機能部設置位置を考え、操作が容易に行える場所に決めてください。付属のリモコンコードの長さは5mです。

※リモコンコードは別売で次の長さがあります。延長配管の際、ご利用ください。
8m……RC-12A-8　10m……RC-12A-10　12m……RC-12A-12
15m……RC-12A-15　20m……RC-12A-20

- 直射日光の当たるところには取り付けないでください。
- 特殊薬品を使用するような場所には取り付けないでください。
- このリモコンは浴室専用ですので浴室外、屋外には取り付けないでください。



（2） リモコンの取付け

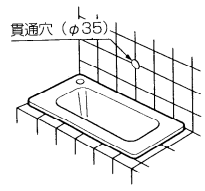
- 屋外で余ったリモコンコードは機能部外でまとめ、コードを伝って雨水等が機能部に入らないように、コードをいったん床におろしてください。
- リモコンコードは電源コードに巻きつけたり、たばねたりしないでください。
  ※動作不良等の原因になります。

手順

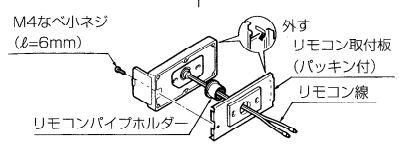
[壁貫通取付けの場合]

付属のリモコンパイプセットを使用します。付属のリモコンパイプでは壁厚200mmまで取り付けられます。これ以上の場合は、別売の延長リモコンパイプ（品番：YE-280-EX延長+50mm）をご使用ください。

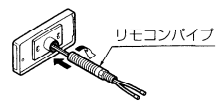
①取付位置の壁にφ35mmの貫通穴をあけます。



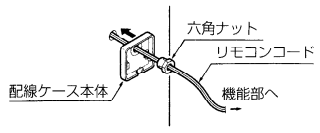
②リモコン裏面の取付板を外しリモコン線をリモコンパイプホルダーに通し、再度固定します。



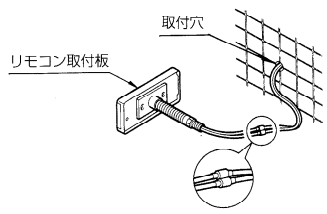
③リモコンパイプにリモコン線を通し、リモコンパイプをリモコンパイプホルダーに手でねじ込みます。



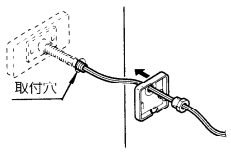
④屋外で六角ナット、配線ケース本体の順に機能部からのリモコンコードを通します。



⑤このリモコンコードを、取付穴を通して浴室内に引き込み、リモコン線と接続します。

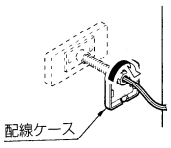


⑥浴室壁の取付穴にリモコンパイプのついたリモコンをはめ込み、壁外に突き出たリモコンパイプの内管を壁から飛び出さない長さまで手でねじ込みます。



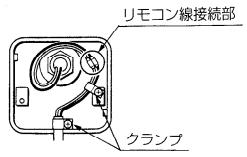
⑦リモコンパイプに配線ケース本体をはめ、六角ナットで締め付け、リモコンを固定します。

- リモコンは水平になるように固定してください。

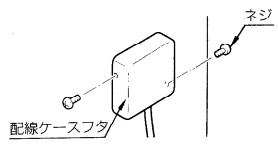


⑧リモコン線の接続部は図のように配線ケースに収納します。リモコンコードは、図のように2箇所のクランプでしっかりと固定します。

- リモコン線の接続部は雨・水がかからないように確実に配線ケースに収納してください。
  ※リモコン線接続部が露出していると動作不良等の原因になります。

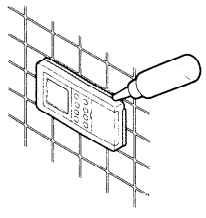


⑨配線ケースフタをかぶせ、両脇のネジで固定します。



⑩リモコン取付終了後、リモコン全周をコーキング剤でコーキングします。

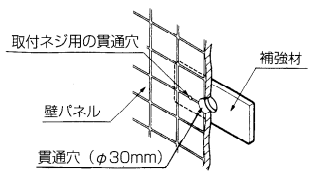
- ●コーキングは必ず全周行ってください。
  ※コーキングが不足していると動作不良等の原因になります。



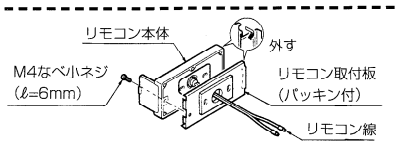
[壁パネル取付けの場合]

付属のビス袋のネジ類を使用します。

①取付位置の壁パネルにφ30mm貫通穴および取付ネジ用の貫通穴をあけます。

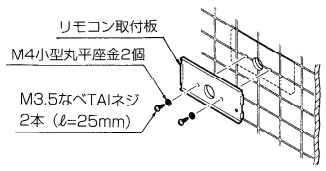


②取付位置の壁パネルの裏に約80×180mm（厚み15mm以上）の補強材を張り付け、φ30mmの貫通穴をあけます。



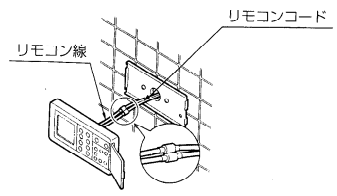
③リモコン裏面のリモコン取付板を外し壁パネルをはさんで、リモコン取付板と補強材をM3.5なべTAIネジで固定します。

● リモコン取付板が水平になるように固定してください。

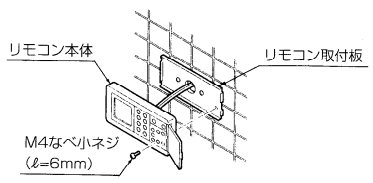


④屋外の機能部からのリモコンコードを、取付穴を通して浴室内に引き込み、リモコン線とリモコンコードを接続します。

● リモコン線接続部に雨・水がかからないようにしてください。
※動作不良等の原因になります。

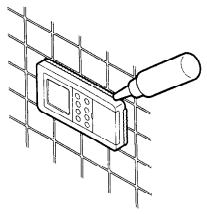


⑤壁に固定されたリモコン取付板にM4なべ小ネジでリモコン本体を固定します。



⑥リモコン全周をコーキング剤でコーキングします。

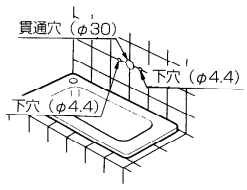
● コーキングは必ず全周行ってください。
※コーキングが不足していると動作不良等の原因になります。



[プラグ取付けの場合]

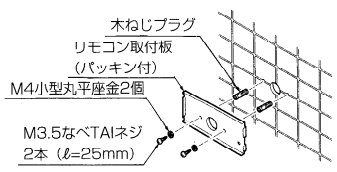
付属のビス袋のネジ類を使用します。

①取付位置にφ30mm貫通穴および木ネジプラグ下穴φ4.4をあけます。



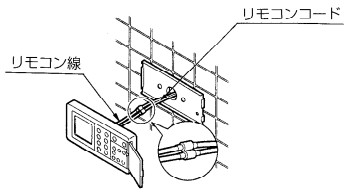
②壁に木ネジプラグを取り付けた後リモコン裏面のリモコン取付板を外し、リモコン取付板をM3.5なべTAIネジで固定します。

● リモコン取付板が水平になるように固定してください。

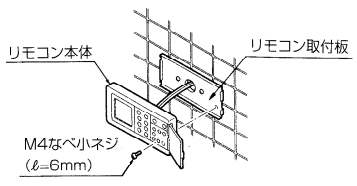


③屋外の機能部からのリモコンコードを、取付穴を通して浴室内に引き込み、リモコン線とリモコンコードを接続します。

●リモコン線接続部に雨・水がかからないようにしてください。
※動作不良等の原因になります。

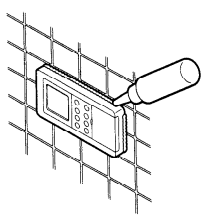


④壁に固定されたリモコン取付板にM4なべ小ネジでリモコン本体を固定します。



⑤リモコン全周をコーキング剤でコーキングします。

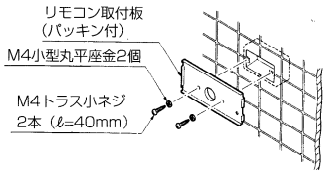
● コーキングは必ず全周行ってください。
※コーキングが不足していると動作不良等の原因になります。



[スイッチボックス使用の場合]

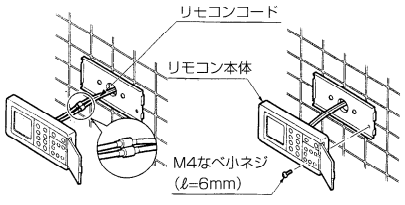
壁パネルの適当な位置にスイッチボックスがある場合、これを利用してリモコンを取り付けます。
付属のビス袋のネジ類を利用します。

①リモコンコードを電線管を通してコンセントプレートから浴室内に引き込み、取付板をスイッチボックスにM4トラス小ネジで固定します。



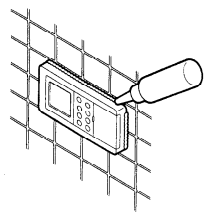
②リモコン線とリモコンコードを接続し、スイッチボックスに固定されたリモコン取付板にM4なべ小ネジでリモコン本体を固定します。

● リモコン線接続部に雨・水がかからないようにしてください。
※動作不良等の原因になります。



③リモコン取付後、リモコン全周をコーキング剤でコーキングします。

● コーキングは必ず全周行ってください。
※コーキングが不足していると動作不良等の原因になります。



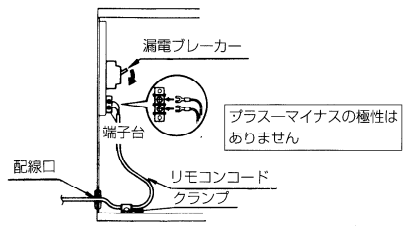
（3）リモコンコードの接続

①機能部のカバーを取り外し、端子台の位置を確認します。

②リモコンコードはクランプで固定します。

● リモコンコードの接続は、必ず漏電ブレーカーを「切」にして行ってください。

③接続が終了したら機能部のカバーを元通りに取り付けます。



■ 点検と確認

試運転をしながら□の項目について点検してください。

始業前の点検

屋外機能部で

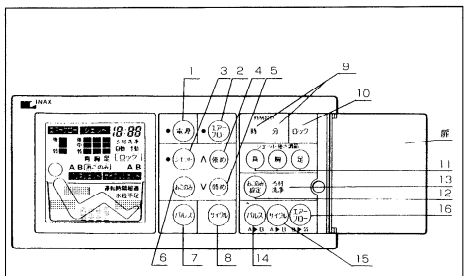
□電源コンセントは交流100V用ですか？
□アース接地工事は正しく行われていますか？
□機能部周辺に保守管理上必要な空間がありますか？
（壁側150mm以上、左右150mm以上、庭側600mm以上）
□機能部に水没の危険性がないですか？
□余ったコードはじゃまにならないようにまとめてありますか？

浴室内で

□リモコンはしっかり固定されていますか？
□リモコン周囲、浴槽周囲にコーキングは充分施されていますか？
□浴槽内にゴミ、異物はないですか？

操作と点検

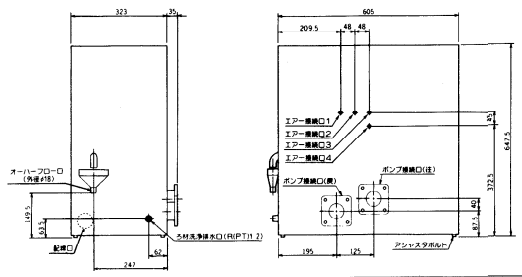
①機能部の電源コードをコンセントに差し込みます。
②浴槽の表面保護シートをはがし、水位表示ラベルまで給水します。
□配管接続部から水漏れしていませんか？
③電源ボタンを押します。
□緑のLEDランプが点灯しますか？
④ジェットボタンを押します。
□赤のLEDランプが点灯しますか？
□水流が正しく出ますか？
⑤ジェットの右図4.~8.ボタンを一通り操作します。
□指定通りにジェットが変わりますか？
□気泡流は正しく出ますか？
□配管接続部から水漏れしていませんか？
⑥ジェットを止めます。
⑦エアーブローボタンを押します。
□赤のLEDランプが点灯しますか？
□エアーブローが正しく出ますか？
⑧エアーブロー強弱切替ボタンを押します。
□指定通りにエアーブローが変わりますか？
⑨ロックボタンを押します。
□ロックボタンが機能しますか？
⑩再度ロックボタンを押し、ロック解除します。
⑪ろ材洗浄ボタンをします。
配管条件によっては最初ろ材洗浄水に少量ビーズが混じることがありますが、異常ではありません。
□手動ろ材洗浄が行われますか？
□機能部からろ材洗浄水が排水されていますか？
⑫浴槽水を排水して点検を終了します。



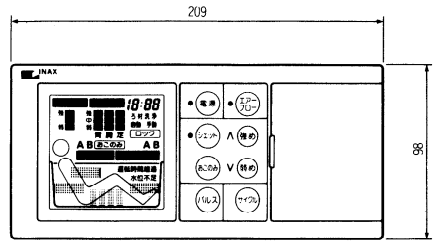
1	電源ボタン	：電源のオン・オフを行ないます。オンの時はランプが点灯します。
2	エアーブローボタン	：エアーブローのオン・オフを行ないます。オンの時はランプが点灯します。
3	ジェットボタン	：ジェットのオン・オフを行ないます。オンの時はランプが点灯します。
4	強めボタン	：背・胸・足のジェットの強さが同時に一段階アップします。
5	弱めボタン	：背・胸・足のジェットの強さが同時に一段階ダウンします。
6	おこのみボタン	：ジェットの強さがおこのみになります。
7	パルスボタン	：パルスジェットのオン・オフを行ないます。
8	サイクルボタン	：サイクルジェットのオン・オフを行ないます。
9	時刻合わせボタン	：時・分で時刻を設定します。
10	ロックボタン	：ジェット・エアーブローの作動を停止させておくことができます。
11	ジェット強さ調節ボタン	：背・胸・足のジェットの強さの調節を各々行ないます。
12	おこのみ設定ボタン	：おこのみのジェットの強さを設定します。
13	ろ材洗浄ボタン	：ろ材の洗浄を行ないます。クイマ で自動的に停止します。
14	パルス切替ボタン	：パルスのパターン切替を行ないます。
15	サイクル切替ボタン	：サイクルのパターン切替を行ないます。
16	エアーブロー強弱切替ボタン	：エアーブローの強弱切替を行ないます。

■ 商品図

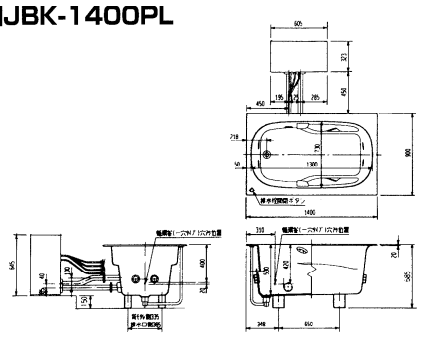
■機能部　JBP-415（6）C



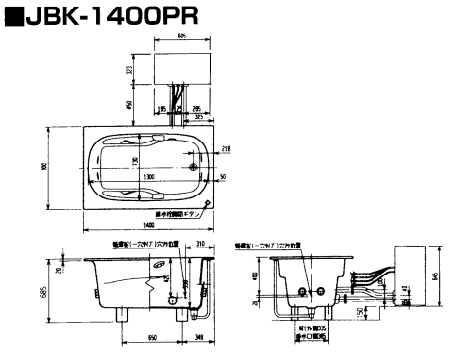
■リモコン



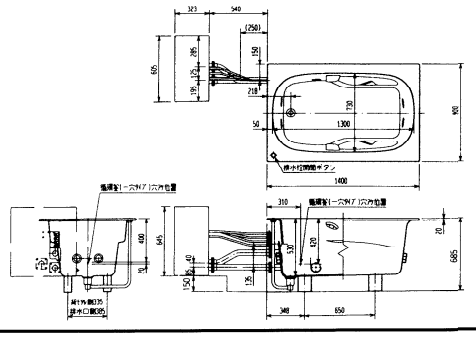
■JBK-1400PL



■JBK-1400PR



■JBK-1400PLA



■JBK-1400PRA